

科学技術の潮流

JST 研究開発戦略センター

85

変わる研究環境

昨年来、世界の研究

開発活動は、他の社会・経済活動と同様に多大な影響を受けている。とりわけ大学の入構制限が長期化し、教育・研究活動は全国的に停滞した。産業界や国の研究機関では相当程度持ち直しているものの、新型コロナウイルス以前のと同じ状況ではない。

都市部と地域部によっても現場は多様である。そこで私たちは、今も起ころうとする新たな感染拡大に耐えながら、19を経たがゆえの進歩も止まることのない、強靱な研究開発環境を日本全体にわたって築くべく、リサーチトランスフォーメーションのために必要な変革である。

「リアル」の再考
実験に遠隔化システムを導入することや、自動化によるラボの省人化などはすでに動き

「リアル」の再考
実験に遠隔化システムを導入することや、自動化によるラボの省人化などはすでに動き

「リアル」の再考
実験に遠隔化システムを導入することや、自動化によるラボの省人化などはすでに動き

都市部と地域部によっても現場は多様である。そこで私たちは、今も起ころうとする新たな感染拡大に耐えながら、19を経たがゆえの進歩も止まることのない、強靱な研究開発環境を日本全体にわたって築くべく、リサーチトランスフォーメーションのために必要な変革である。

都市部と地域部によっても現場は多様である。そこで私たちは、今も起ころうとする新たな感染拡大に耐えながら、19を経たがゆえの進歩も止まることのない、強靱な研究開発環境を日本全体にわたって築くべく、リサーチトランスフォーメーションのために必要な変革である。

都市部と地域部によっても現場は多様である。そこで私たちは、今も起ころうとする新たな感染拡大に耐えながら、19を経たがゆえの進歩も止まることのない、強靱な研究開発環境を日本全体にわたって築くべく、リサーチトランスフォーメーションのために必要な変革である。

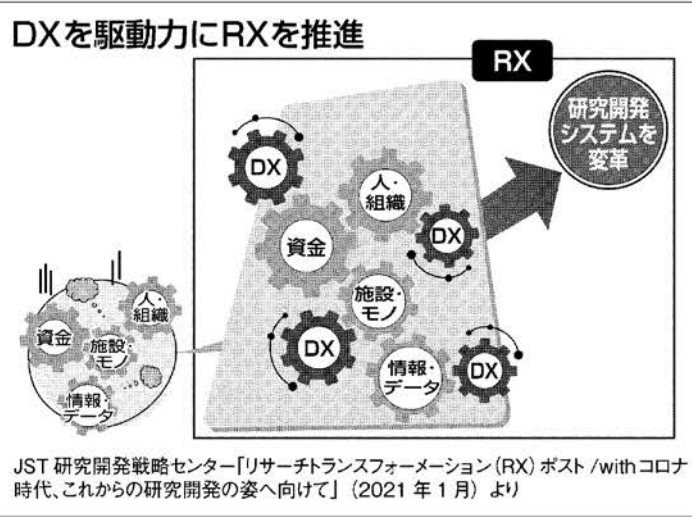
都市部と地域部によっても現場は多様である。そこで私たちは、今も起ころうとする新たな感染拡大に耐えながら、19を経たがゆえの進歩も止まることのない、強靱な研究開発環境を日本全体にわたって築くべく、リサーチトランスフォーメーションのために必要な変革である。



科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センターフェロー/総括ユニットリーダー 永野 智己

リサーチトランスフォーメーション 研究開発を変革

学習院大学理学部化学科卒、グロービス経営大学院経営学修士(MBA)。主にナノテクノロジー・材料・デバイス・計測技術分野の戦略立案を行ってきた。JST研究監、文部科学省技術参与を兼任。



始める。しかし未成熟で、全体整合的ではなく、広くその利便性を享受できるように標準化し、現実的なコストで導入可能とするための技術開発など、課題は山積である。研究関連人材の新しい働き方や、人の移動・時間の使い方が変化していく中での組織構造・雇用環境の見直し、共同研究や学会の新形態、労働集約的な研究開発環境からの脱却が課題である。研究において、リアルでその価値とは何か、その在り方の再考が求められる。次回以降の本